会　議　録

会議の名称		令和８年度第１回つくば市生涯学習審議会
開催日時		令和８年(2026 年) ８月 26 日（水） 開会午後２時　閉会午後４時
開催場所		つくば市役所　防災会議室２，３
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課
出席者	委員	樋口　直宏委員（会長）、小森谷 さやか委員（副会長）、 石塚 一夫委員、岩瀬　由美子委員、海老原　康弘委員、 倉持　勝男委員、島田　由美子委員、鈴木　朱里委員、 中川　元委員、中川　浩之委員、中野　真粧美委員、 油原　ゆう子委員、鷲田　美加委員
	事務局	森田 信道次長、澤頭 由紀子生涯学習推進課長、 山口 健次参事、瓜阪 恵理名課長補佐、 矢部　暢子係長　小宅 剛主事、谷口　和花菜主事
公開・非公開の別		■公開 □非公開 □一部公開	傍聴者数	０名
非公開の場合はその理由		
議題		（１）第３次つくば市生涯学習推進基本計画令和７年度計画進捗状況について （２）第３次つくば市生涯学習推進基本計画における取組状況について（総括） （３）第４次つくば市生涯学習推進基本計画について
会議次第		１　開会 ２　任命書交付 ３　挨拶 ４　自己紹介 ５　会長及び副会長選出 ６　議事 （１）第３次つくば市生涯学習推進基本計画令和７年度計画進捗状況について （２）第３次つくば市生涯学習推進基本計画における取組状況について（総括）

	（３）第４次つくば市生涯学習推進基本計画について ７　その他 ８　閉会
１　開会 ○ 事 務 局 （瓜阪）	では、ただいまから令和８年度第１回つくば市生涯学習審議会を開会いたします。つくば市教育局生涯学習推進課課長補佐の瓜阪と申します。本日司会をいたします。どうぞよろしくお願いいたします。 本日の審議会は、つくば市附属機関の会議及び懇談会等の公開に関する条例により公開いたします。
２　任命書交付 ○ 事 務 局 （瓜阪）	初めに、任命書の交付をいたします。 本日は、五十嵐市長が公務のため欠席となりますので、代理として、教育局次長、森田から、任命書の交付及び挨拶をいたします。 皆様を代表しまして、石塚一夫委員に任命書をお受け取りいただきたいと思います。 石塚委員、恐れ入りますが、前へ、お進み願います。
○森田教育局次長	任命書。石塚一夫様。 つくば市生涯学習審議会委員に任命します。 任命期間令和８年８月１日から令和 10 年７月 31 日まで。 令和８年８月１日。つくば市長五十嵐立青。 お願いいたします。
○ 事 務 局 （瓜阪）	ありがとうございました。 なお、その他の委員の皆様の任命書につきましては、机上に配付させていただいておりますので、ご確認ください。
○ 事 務 局 （瓜阪）	続きまして、教育局次長の森田より皆様に挨拶申し上げます。
３　挨拶 ○森田教育局次長	はい。皆様こんにちは。 教育局次長の森田と申します。 市長は公務により出席が叶いませんので、市長挨拶を代読させていただきます。代読いたします。 本日はご多忙のところ、つくば市生涯学習審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。本審議会は、当市の生涯学習を振興するための施策を総合的に推進していくための諮問機関です。 本年８月１日付けで、委員改選を行い、本日は、新体制での初めて

	の会議となります。 15 名の委員のうち、12 名が新任であり、関係団体の代表者の皆様や、公募による市民委員４名をはじめ、多方面でご活躍の皆様にお集まりいただきました。 多角的な議論があって、期待できる心強い体制として、心より歓迎申し上げます。 当市の生涯学習施策は、つくば市生涯学習推進基本計画に基づき、展開しています。 今年度から始まった第４次計画では、「学びを楽しみ、学びがめぐり、学びで繋がる幸せのまちつくば」を基本理念に掲げ、「多様で豊かな個性が花開く環境づくり」と、「善き生の実現能力と社会力を育てる」を柱としております。 特に社会力は重要なキーワードであり、当市では、令和３年度から、社会力養成講座をシリーズで実施するなど、取り組みを重ねています。 生成 AI に象徴される技術革新が進む中、大人になってからも学び続ける生涯学習の重要性は一層高まっています。だからこそ、AI に代替されない、人間ならではの感性や、地域の繋がりを育むことが、生涯学習の大切な役割だと考えております。 市民の皆様が生涯にわたり、楽しみながら学び、新たな挑戦ができる環境をどう整えるか、委員の皆様には、先進的で具体的なご提案や活発なご議論をお願い申し上げます。 いただいた審議の成果は、今後の施策事業に着実に反映して参ります。 任期の間、どうか温かいお力添えを賜りますようお願い申し上げます。 本日はよろしくお願いいたします。
４　自己紹介 ○ 事 務 局 （瓜阪）	続きまして、今回の会議から新しい審議会の体制となりましたため、石塚委員から、机上に配付しております名簿順、席の順番ですね、お座りの順番で自己紹介をお願いしたいと思います。 氏名と任命区分についてお話ください。 議事進行の都合上、お１人当たり１分程度でお話いただけると助かります。 よろしくお願いいたします。
○石塚委員	名簿ナンバー１番の石塚一夫です。 つくば市シルバークラブ連合会の会長をしております。 前年会から引き続き、この役職をいただきまして、皆さん方といろいろ勉強させてもらいながら、（任期を）全うしていきたいなと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○岩瀬委員	新しく委員の方に選ばせていただきました。 岩瀬由美子と申します。みどりの南小学校で校長をしております。つくば市全体では、「１人残らず幸せになる学校」を、全学校を目指して取り組んでいるところです。どうぞよろしくお願いいたします。
○海老原委員	はい。皆さんこんにちは。 名簿ナンバー３番、海老原康弘と申します。 株式会社カスミより参りました。 社内では、人事部、教育を担当しておりまして、特に若年層の技術教育を担当しております。 今回生涯学習の審議委員ということで、私もやっぱりいくつになっても、学びたいものはあります。そういったところでこの審議会の役に立てるように頑張りたいと思います。 よろしくお願いいたします。
○倉持委員	名簿ナンバー４番の青少年を育てるつくば市民の会会長をしています。倉持勝男と申します。前任者から充て職のような形で、生涯学習審議会の委員に任命されるのでよろしくというような話がありまして、その時は軽い感じで受けたんですけども。事前に事務局から送られた資料を見ると、この活字の量の多さと、文量と内容と、すごいなと、この資料を作るだけですごいなと、感動しました。 よろしくお願いします。
○小森谷委員	はい。ナンバー５番の小森谷さやかと申します。 市議会議員をしております。よろしくお願いいたします。 私も前期からの継続ではありまして、この第４次つくば市生涯学習推進基本計画の策定もしたんですけれどもこうやって冊子になると感動します。 先ほど次長の方からもありましたけれども、「学びを楽しみ、学びがめぐり、学びで繋がる、幸せのまちつくば」っていうキーワードというか基本理念っていうのも、苦労して、いろんな意見をまとめたので、懐かしく思い出していました。引き続きどうぞよろしくお願いいたします
○島田委員	はい。７番のつくば市ボランティア連絡協議会から参りました島田と申します。よろしくお願いします。 去年までは代表が来ていたんですけれども、ボランティアも働き方改革ということで、いろいろな仕事を各委員に割り振っており、今回副代表の私が参りました。 市民活動している市民の立場から、何か意見が言えればなと思ってきました。プラスとして、つくばの TX 沿線の住民の声がなかなか

	届きにくいところがあり、その地域の声を伝えられたらなと思っております。 よろしくお願いします。
○鈴木委員	８番の鈴木朱里と申します。 ままとーんの代表をしております。よろしくお願いいたします。 ままとーんは 1999 年から、子育て支援団体として活動をしています。 私、代表ではありますが、設立当初からというわけではなくて、この長年の間で代表も入れ替わりしてきている団体でして、第６代目になっております。今そこにいらっしゃる鷲田さんが第２代のままとーんの代表になっております。ままとーんは子育て当事者の視点というところで活動をしておりますので、こちらの審議会の方でもそういった立場で関わらせていただければと思っています。よろしくお願いいたします。
○中川　元委員	こんにちは。はじめまして。よろしくお願いします。 中川元と申します。市民委員として参加させていただいています。 個人的には万博記念公園駅前の香取台地区、島名地区の方でコミュニティスクール委員とかをやらせていただいております。 冊子の方を読ませていただいた中で well-being っていう言葉が何度か出ていたんですけど、僕的には、本質をとらえるような活動に繋げていければなと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。
○中川　浩之委員	中川と申します。中川浩之です。 今現在東光台に住んでいまして、つくばにはかれこれ 20 年ほど住んでいます。しばらく研究所関係に勤めていまして、引退しましたので市民委員として今回参加させていただきました。生涯学習という意味では、40 代でここの卓球入門講座を受講して、それからずっと卓球をやっています。最近ですと、つくばワイナリーというところのぶどうづるを使った立体アート創作などをやっていまして、あわせて、竹細工を趣味として始めています。昨年末からサークルを作って、香取台小学校の図工室の活用とかですね、つくば市には大変お世話になっております。よろしくお願いいたします。
○中野委員	皆さんこんにちは。12 番の市民委員として本年度から参加させていただきます。中野真粧美と申します。よろしくお願いいたします。 一昨年までは学園の森義務教育学校で校長をやっておりました。 今は県南教育事務所というところで、お仕事をさせていただいております。 長年、学校教育には携わってきたのですが、そうではない生涯学習について学ばせていただきたいなと思って参加させていただいて

○樋口委員	おります。どうぞよろしくお願いいたします。 こんにちは。13 番の樋口直宏と申します。筑波大学の人間系で教育学を専攻しております。 今日は欠席ですが、9番の丹間先生という方も同じ職場で、専門領域でいうと彼は生涯学習社会教育の方が専門で、私の方はどちらかというと学校教育が専門です。つくば市の教育委員会との関わりで言うと小中一貫教育とか、教育評価の懇談会だったり、或いは、新しい学校ができて、学校をどういう形で線引きするかというような学区審議会の場で、これまでは関わりを持たせていただきました。 また、何人かの委員の方も仰ってましたけれどもコミュニティスクールができ始めて、私もずっと関わってきて、それで生涯学習推進課の方々とも仕事を一緒にするようになりました。 それからもう１つは、これと同時期なのですが、今年の３月に教育振興基本計画というもう１つ、上位的な規定にあたる計画がつくば市でできていまして、それの委員長を仰せつかったという関係で今回こちらの方にもお声がけいただきました。 学識ということで学も識もありませんけれども、どうぞよろしくお願いいたします。
○油原委員	14 番の油原ゆう子と申します。 実は私は隣にいらっしゃる、鷲田先生の生徒として、つくば市役所にお世話になりました。なんかすごく、胸がドキドキするぐらい自分の至らなさを知り、今時代がここまで新しく進んでいるということを学ばせていただきました。 本当だったら、鷲田先生の隣にいるような人間じゃございませんけれども。私もう 70 代になりました。若いとき、文部科学省の生涯学習局の傘下にあった組織でお仕事させていただき生涯学習って大事だなあということを学ばせていただきました。今となってはもう本当に、こんなところに来るのはおこがましい人間ではございますけれども、何かお役に立てたら嬉しいなと思って伺いました。 どうぞよろしくお願いいたします。
○鷲田委員	皆様こんにちは。名簿 15 番。NPO フュージョン社会力創造パートナーズ幹事の鷲田美加と申します。 私は、イベントや講座のプロデュースを通してまちの中に学びや出会いの場を作る仕事に携わっております。その一環でラジオツクバにて、「あの人に学びたい、明日ノート」という教育番組を担当しております。皆様のご出演を心よりお待ちしております。 皆様に学ばせていただきながら、つくば市の生涯学習の振興に少しでもお役に立てればという気持ちでおります。どうぞよろしくお願いいたします。

	どうもありがとうございました。なお、丹間康仁委員、澤江幸則委員におかれましては、本日欠席でございます。 改めまして、本日は、過半数である 13 名の委員の皆様に出席いただいておりますので、条例に基づいて会議を開催いたします。 続きまして、事務局であります、つくば市教育局の出席者を紹介させていただきます。
○ 事 務 局 （瓜阪）	改めまして皆様こんにちは。 局次長の森田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。 同じく参事の山口と申します。どうぞよろしくお願いいたします。 課長の澤頭と申します。皆様どうぞよろしくお願いいたします。 係長の矢部と申します。よろしくお願いいたします。 主事の谷口と申します。本日はよろしくお願いします。 主事の小宅と申します。よろしくお願いいたします。
○事務局	最後に、改めてとなりますが、生涯学習推進課課長補佐の瓜阪でございます。 どうぞよろしくお願いいたします。
	では議事に入ります前に、会長と副会長の選出を行います。 選出方法につきましては、つくば市生涯学習審議会条例第５条第２項に、会長及び副会長は委員の互選によって定めるとあります。 委員の皆様いかがでしょうか。
５会長及び副会長選出 ○ 事 務 局 （瓜阪）	事務局としましては、会長は樋口委員、副会長は小森谷委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。 （拍手） ありがとうございます。 それでは、樋口委員が会長、小森谷委員が副会長に決定いたしました。 樋口会長、小森谷副会長、どうぞよろしくお願いいたします。 これから議事に進んで参りますが、議事の進行につきましては、つくば市生涯学習審議会条例第６条第２項に、会長は会議の議長となると定められていますので、樋口会長に議事を進めていただきます。 樋口会長は議長席へ。小森谷副会長は副会長席へ移動をお願いいたします。 それでは樋口会長お願いいたします。
	第３次つくば市生涯学習推進基本計画　令和７年度計画進捗状況

	について 第３次つくば市生涯学習推進基本計画における取組状況について（総括） 着座にて失礼いたします。改めて樋口でございます。よろしくお願いいたします。それでは鑑の議事に沿って進めて参りたいと思います。
６議事（１）（２）	本日は、(1)から(3)までの、３件について、進めて参りたいというふうに思います。 今申し上げた３つのうち、１番と２番は関連する内容でございますので、議事１と議事２について進めて参ります。
○樋口会長	進め方につきましてはまず、事務局よりご説明をいただいてそのあと、委員の皆さんからご意見をいただくという形で進めさせていただきます。 それでは事務局の方からご説明をお願いいたします。
○事務局（矢部）	それでは議事１、第３次つくば市生涯学習推進基本計画令和７年度計画進捗状況についてご説明いたします。第３次生涯学習推進基本計画は、令和７年度で終了しており、今年度から第４次計画が始まっています。 しかし、今回の審議会は、たてつけ上、第３次の総括という位置付けでもありますので、令和７年度の事務事業の評価と、第３次計画の総括を始めに行います。また、第３次計画と第４次計画では、事務事業の評価方法も変わっておりますので、その点にも留意していただきたいです。 委員の皆様には、第４次計画の５年間のうち、最初の２年間の計画・進行と評価を行っていただくことになります。 資料１－１をご覧ください。資料１－１は、第３次計画の施策の体系になります。 第３次つくば市生涯学習推進基本計画は、令和３年度から令和７年度までの５年間の計画でした。基本理念「つながる 広がる つくばの生涯学習の実現」に向けて、２つの基本方針により、取り組みを進めてきました。 基本方針ごとに施策のポイントを示す施策の柱が４つあり、各施策の柱の実現に向けて、施策の方向性がそれぞれあります。 この８つの施策の方向性に該当する 34 事業が、第３次計画の評価の対象となります。 この 34 事業を評価した方法について説明いたします。 資料３－２の評価の欄をご覧ください。A３の紙の方になります。こちらの右端に、評価の欄がございます。 各担当課は、毎年事業を振り返り、事業の実施状況を１から４で評価しています。また、担当課が設定した評価指標の目標値に対し、実績値がどの程度であったかで、指標評価が決まってきます。

	例えば、資料３－２の一番上、図書館利便性向上事業の例で言いますと、評価指標が６つあります。評価指標は、評価指標と書いてある、評価の一番右の評価の欄から次の、左隣の評価指標になります。そこに６つの指標が書いてございます。 この各指標の実績値が目標値に対して、どの程度達成できていたかで点数が決まり、その点数の平均点で、指標評価が決まります。 この事業では、３つの評価指標のうち、100％達成できていたものが３つ、70％以上が２つ、50％以上が１つだったので、平均点は８点でした。 従って、指標評価は小文字のａということになりました。 担当課の実施状況評価は２でしたので、資料１－２の総合評価の欄をちょっと見ていただきたいのですが、資料１－２の総合評価というのは２ページ目にございまして、その一番下の表ですね。 そこで、実施状況が２で、指標が、小文字のアルファベットａをクロスさせたところは大文字のＡになりますので、その大文字のＡというのが総合評価になっております。 なので、こちらの資料３－２の一番右端の評価・総合というところが、大文字のアルファベットのＡということになっています。 このように、各事業の総合評価は決まっております。 次に、施策の方向性ごとの評価の方法について説明いたします。 資料１－２の②、今見ていた、ページをめくっていただいて一番後ろのページになりますが、この表をご覧なってください。 各事業の総合評価は、大文字のＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを点数化しております。その点数の平均点が、施策の方向性の評価となっています。 どういうことかと申しますと、資料３－２にまたちょっと戻っていただきたいのですが、資料の３－２の一番上のところですね、施策の方向性というところで、施設の利便性の向上というところがございます。 こちらには、２つの事業、事務事業が該当しておりまして、先ほど申し上げた図書館利便性向上事業というのは、総合評価は、大文字のＡになっております。 その下の市民交流施設利便性向上事業というのは、大文字のＳというのが総合評価となっておりますので、総合評価がＡとＳになっていますので、こちら資料の１-２の表を見ていただくと、Ｓは10点、Ａは８点となっておりますので、平均点は９点ということになります。 その９点はどこに書いてあるかといいますと、資料３－１の、Ａ４版の方なのですが、資料３－１の施策の利便性の向上というところで、施策の方向性評価というところで、こちらが９点というふうになっております。 以上のように、毎年の事務事業や施策の方向性は評価されております。 それでは、令和７年度の事務事業の評価を説明いたします。

	資料２－１の２ページをご覧ください。 こちらの表で、令和７年度、一番下の行をご覧ください。 令和７年度は、S 評価の事業が９つ、A 評価の事業が 17 あり、全 34 事業中 26 事業と、約８割の事業が S または A 評価であることから、全庁的な生涯学習の取り組みは、順調にできていたと言えます。 次に３ページ目をご覧ください。資料２－１の３ページ目です。 こちらの表は、施策の方向性ごとに評価をした全体評価です。 令和７年度の結果に注目してみますと、参加機会の拡充が満点の 10 点を取っていることに目がいくと思います。 高評価だった要因として、民間企業等での出前講座実施数の増加や、ちびっ子博士の動画視聴の満足度が高かったこと、地域交流センターでの平日夜間と休日の講座数が増加したことが挙げられます。 その一方で、社会力を持った人材の育成、１番下の行のところになるのですが、そこの令和７年度の結果は５点にとどまっております。 その理由としては、社会力を生かした今後の活動意向というアンケート調査結果が 47％と低かったことや、地域まちづくり支援事業で、まちづくり見学会や専門家の派遣を希望する市民が少なかったことなどが挙げられます。 講座や動画視聴などを通して学んでいる市民は一定数おりますが、学んだことを生かし、地域の課題解決に取り組もうとする人材の育成については、まだ十分とは言えない状況にあります。 令和７年度の事務事業の評価の詳細は資料３－２を、施策の方向性に関する評価は資料３－１をご覧になってください。 令和７年度の事務事業については以上になります。 では、引き続き、第３次計画の取り組み結果について説明いたします。 資料２－１の２ページ目をご覧ください。この５年間で、S 評価、A 評価、C 評価は増加しております。B 評価、D 評価は減少しています。 令和３年度、４年度は新型コロナの影響もあり、思うように事業が行えず、好評価をとる事業が少なかったのですが、新型コロナが落ち着いてからは、計画通りに実施できた事業が増え、それとともに、総合評価も良くなってきています。 次に、施策の方向性ごとの評価を見てみようと思います。次のページをご覧ください。 一番右側にある平均は５年間の平均点になります。 最も平均点が高かったのが、上から４番目の参加の障壁をなくす取り組みで、毎年８点以上となっておりました。 最も平均点が低かったのは、上から３番目の生涯学習の相談・情報の提供でございまして、令和３年度のコロナの時期の点数が低かっ

	たことが、影響しており、平均点も低くなっております。 ５年間、概ね評価は安定しており、２つを除いて、平均でも７点以上となっているので、施策の方向性ごとに見ても、事業は順調に行われていたといえると思います。 ただ、社会力を持った人材の育成、一番下ですね、そちらの方は評価が毎年低下している結果となっております。 施策の方向性の５年間のまとめにつきましては次のページの資料２－２をご覧ください。こちらに詳細が、まとめて書いてございますので、詳細をご覧なりたい方はこちらをご覧ください。 次に、資料２－１の１ページ目をご覧ください。 こちらは成果指標の達成状況になっております。 目標の達成状況を見ますと、（１）多様な学びの実現と（２）誰１人取り残さない生涯学習において、実績値が目標値を上回り、達成することができました。 (３)地域で学び合う生涯学習は、目標値を達成することができませんでした。 これは、新型コロナのため、地域交流センターの利用者数を制限せざるをえなかったことが影響していると思われます。 令和３年度の利用者数は 27.6 万人まで落ち込んでいましたが、その後、毎年順調に増加しており、令和元年度の水準まで、もう少しで回復すると思われます。 (４)社会力を持った人材の育成と、(５)計画全体の評価も、目標値を達成できませんでした。 自分の学習成果で、社会に貢献したい人や市の生涯学習の施策に満足している人の割合を増やしていくのが、今後の課題になると思います。 以上です。 はい。ありがとうございました。 それでは 20 分ぐらいですかね質疑、議論のほうに入りたいと思います。 なお、本会議の議事録はマイクを使っての発言が直接録音される、録音システムを使用しております。 発言される際はマイクをご使用いただき、発言の最初にお名前をおっしゃってから発言をお願いいたします。
○樋口会長	私も含めて、メンバーが全部変わったということで、そもそも何をするところなのかとか、或いはこの資料の中身なのかとか、或いは経験持たれた前期からの続きの委員の方は、ここはどうなのかということで具体的な話まで行けると思いますので、どういう角度からでも結構ですのでご自由にご発言いただければというふうに思います。 鈴木です。

○鈴木委員	資料３－２の４ページになります。 事業者番号の 23 番の家庭教育学級について質問なのですが。 こちらが評価としてはC評価がついているのですが、実績値としてはその児童生徒数を除外し、減少したために、C評価なのかなというところではあります。 もしこれが仮に例年と同様であれば、評価が何になったのかちょっと教えていただいてもよろしいでしょうか。 はい。この表の４ページになりますかね 23 番のことへのご質問かと思います。事務局の方はいかがでしょうか。 データをお調べしますのでお待ちください。 委員がおっしゃる通り目標値に近い数値とはなっているかと思うのですが、調べるのに時間かかるので、調べてまた後程、お伝えします。
○樋口会長	はい、ありがとうございます。 そしたら、続けて質問なのですが、こちらの家庭教育学級は幼稚園、小学校中学校、義務教育学校が対象かと思うのですが、こちらには乳児家庭教育学級は含まれないという認識でよかったでしょうか。
○ 事 務 局（矢部）	そうですね、乳児の方は、こちらの方には含まれないということになりますね。
○鈴木委員	今先ほど目標値と大体同等数であるってふうなことだったのですが、この家庭教育学級のところ、各学校さんで、いろいろされていると思います。学校においてPTAがあるところとないところと存在すると思うのですが、PTAがあるところは、保護者中心で、家庭教育学級の方を開催していますが、PTAがないところに関しましては、結構先生方がされているとお聞きしています。学校によって、PTAがあるかないかによって、実施回数による差ですとかがあるかをお聞きしたいです。
○ 事 務 局（矢部）	
○鈴木委員	あともう１点が、企業向けに家庭教育学級を開催しているということですが、どのような内容なのかというところと、働く保護者向けにということですが、独身の方や、子育て一段落した方は対象ではないのかを教えてください。 ２つ目の方からいいですかね。市内の企業に出向いて、家庭教育学級を開催するっていうのはどういう意味なのか、私もちょっと承知してないので、お願いします。 はい。こちらは、働く方が時間を割いて平日の日中に外に出て、講座を聞きに行くということがなかなか難しいというお声をいただ

	いております。当課の職員が、企業さんの職場の方に出向き、その人事担当者ですとかと調整をしていただいて、お昼休みとか、働くことに影響のない範囲で、家庭教育に関するお話をさせていただくといったことをさせていただいております。
○樋口会長	大体、年間に２つの事業所、もしくは、３ヶ所４ヶ所、実施させていただいておりまして、そこに独身の方が入るのかですとか、一段落した方が入るのかについては、企業さんのお声掛けの仕方によって違ってきます。お子さんはいないけれども将来のために聞いておきたいというような方もまざる場合もあります。身近なところから、自分の限られた時間の中で、家庭教育学級に関する知識を身につけていただけたらなということで、進めている事業でございます。
○ 事 務 局（澤頭）	学校とか関係ないということですか。 ある学校の家庭教育学級とかではなく、どこの学校にお子さんが通っていらしても構わないっていう理解ですかね。
	職場の方に出向いていきますので、いろんな、例えば市外の方も、いらっしゃるのではないかと思います。 こちらとしては企業にお勤めされている方を対象に開催させていただいております。
○樋口会長	はい、ありがとうございます。 企業向けっていうものは、企業さんにも、市の方からこういったものがありますよという形で案内をして、申し込みがあったところに対して、やるという感じなのでしょうか。
○ 事 務 局（澤頭）	なかなか募集するというのが難しいのかなと思っておりまして、当課から直接、お声掛けをさせていただいております。 具体的には市の手配があるヤクルトさんですとか、あとは、連携を結んでいる SDGs ですとかの会社さんに直接お声掛けをさせていただいて、開催させていただいております。
○鈴木委員	ありがとうございます。 家庭教育学級は、保護者だけではなく、いろんな方に聞いていただけるとよりいいのではないのかなというふうに思います。
○ 事 務 局（澤頭）	今実際その家庭教育学級の委員もしているのですが、多くの参加者に来ていただくのが難しいところではあるので、どういった形だと実際に参加しやすい仕組みになるのかなっていうところも考えてはいるんですけれど、難しいところがあるので、一緒に取り組みの方をしていけたらいいのかなっていうふうに感じました。
○鈴木委員	はい。ありがとうございます。

	あと人数のこととか、あと、誰が主催とか、企画を立てるかとか、その辺について、わかる範囲で事務局から回答あるようでしたら、どうぞ。
○樋口会長	はい。あともう１つのご質問の、PTA がない学級と、ある学級の差が生じてないかというご質問につきましては、それは差が生じないようにこちらは配慮させていただいているつもりです。 当課に社会教育指導員がおりますので、学校の先生と調整をしながら、PTA がなくとも、家庭教育学級を開催できるように配慮しており、実際開催しております。
	はい、ありがとうございます。
○ 事 務 局 （澤頭）	残りの質問はまた後日でよろしいですかね。 はい。石塚委員、お願いします。
	石塚でございます。資料２－２についてお尋ねします。 まず資料２-２の一番下の、社会力を持った人材の育成ということで、先ほど事務局の方でも、課題があるという話がありました。この第４次の計画書には、社会力って言葉が１ページに、いくつも書いてあります。
○鈴木委員	にもかかわらず、育てる講習会を実施するたびに、（パーセンテージが）減っていっちゃうっていうことに問題があるのではないかと思います。これからの、生涯学習の面は社会力、という位置付けでやっているわけですから、人材を育てる養成講座をして、関心を持つ人がだんだん減ってくるっていうのは、私たちとしてはいかがなものかと思うので、私どもたちも当然ですけども、事務局と相談させていただきながら、関心を持ってもらえるような社会力にできたらいいのかなと思います。
○樋口会長	
○石塚委員	
	はい、ありがとうございます。 これからどうするかという話、次の議題にも関わってくるのでそこでまたご説明なり議論をして参りたいと思いますが、何か事務局、今の範囲でお答えとかありますか。
○樋口会長	はい。まさに、石塚委員がおっしゃっているところは課題と考えておりまして、議事３の方でも、社会力について取り上げたいと思っております。審議会の皆様には、この社会力が、どうやったらつくば市民に理解され、意識変容・行動変容を起こせるかということについて、そのためには行政としてどのような事業展開をしていったらいいのかについて、活発なご議論をお願いしたいと思っております。まさに今のご指摘が、今回の審議会のメイントピックというふうに考えていただいて結構でございます。

○ 事 務 局 （矢部）	議題３でも、話し合いたいと思いますので、よろしくお願いいたします。 よろしくお願いします。 あともう１つなのですが、同じ２の次で、誰１人取り残さない生涯学習ということで、主体的活動に参加できる取り組みと、チャレンジアートフェスティバルに毎年 2,000 名ほどの参加があるということですが、１回 2,000 名なのか、何日かに分けて行事を行って合計が 2,000 名なのか、ちょっとお尋ねしたいなと思いました。 はい。チャレンジアートフェスティバルについていかがでしょうか。
○石塚委員	チャレンジアートフェスティバルについてですね、ちょうど今、チャレンジアートフェスティバルやっておりまして展示物が庁内に飾っております。 開催が１回なのかどうなのかっていうのは、担当課に確認したいと思います。 毎年 2,000 名ほどの参加者数を達成して、チャレンジアートフェスティバルも、展示物を展示していたりするので、どういうカウント方法なのかも担当課の方に確認してから回答したいと思います。
○樋口会長	
○ 事 務 局 （矢部）	展示だけじゃなくてあれですよね。 カピオでやっているお祭りのことではないですか。１日でやっていて、障害者の団体の方が出展したりとか、あとは、ダンスをしたりとか、そのことじゃない？ あ、そうですね。 展示だけじゃなくて、演劇等による舞台発表とかもやっておりますね。
○小森谷副会長	この３－２の横表の２ページの 14 番のところがもう少し詳しく書いてありますかね。私も参加したことがないので、わからないのですが。 何か、他の委員の方で、ご存じの方いらっしゃったら補足をお願いいたします。はいどうぞ。
○ 事 務 局 （矢部）	そう言われてみますと今回、障害者団体の方は、委員として入ってないですか？ 澤江委員ですかね。
○樋口会長	

	今日ご欠席だということですね。失礼いたしました。 どうも失礼いたします。 他の委員が先ほどおっしゃったようにすごい資料だと、感動しながら事前にちゃんと読んでまいりました。 鷲田先生の講座に出ている、他の市の方もおっしゃっていたのですが、つくば市はレベルが高いです。資料２－１の３ページにある社会力を持った人材の育成というところで、平成３年から、だんだん低下しています。これについて、そもそも、社会力っていうのはなんだっていうのも１つあると思いますが、リーダーの資質を持った人は、最初に参加したから、だんだんそういう方（未参加の方）が少なくなったのではないかと。つまり、（社会力を持った人の）母数として、多くなっているのではないかと、思う次第でございます。 そしたら毎年低下しているのではなくて、新しく人材になる人が少ないというふうに読めるんじゃないだろうかと考えます。そしたら、そんなに悪い点数ではないのではと考えました。それとも、市の方々は、向上心があるから、自己評価が非常に低いのではないかと、思っているところでございます。 それで、この資料３－２の生涯学習の相談情報の提供ということで、総合評価 A でございます。 アプリケーション、SNS を活用した発信ということですが、令和６年度が 46 回あって、（令和）７年度が 10 回というのは、だんだん知られてくるようになったからそこまで（情報発信を）する必要がなくなったのか、それとも、我々みたいなそのサポーターがサボっているのか、もっと注力するべきなのかがわからないところでございます。アプリケーションや SNS を活用した発信について、どういう人がどんなふうにお手伝いしたら、良くなるのかということを、教えていただければと思います。 実は、私新潟市役所から毎年、40 枚ぐらいです新潟市の宣伝が書いてある名刺をもらいます。新潟市サポーターズクラブって書いてあって、これをアウトに渡してくれというボランティアをしています。メリットもありまして、自分の名前や住所、電話番号なども書いてあるので、私の自己紹介にもなるし、新潟市の紹介にもなると、いうようなことを新潟市は、タダでやってくれています。 もちろん私みたいなものが他にもたくさんいると思います。これ新潟市を離れても、新潟市の宣伝をしてねということで毎年くれます。こういう努力を、我々がすべきなのかどうなのかというところも教えていただければ、忌憚のないご意見をいただければと思っている次第でございます。 感想でした。失礼いたします。
○小森谷委員 ○事務局（矢部） ○小森谷委員 ○油原委員	はい。確かに令和６年度は、アプリケーション、SNS を活用した発

○ 事 務 局 （矢部）	信 46 回と、令和 7 年度は、10 回です。 今、アプリケーションとか SNS というのが大変たくさんあります。それで、X と言っても、例えば広報もありますし、いろんな課で（アカウントを）持っているところもありますし、それから皆様、入れてらっしゃるかわからないのですが、つくスマというのもございまして、プッシュ型の情報発信になっております。 生涯学習の情報を発信するときに、何が一番効果的なのだろうかというふうに疑問に思うことがあります。 一番は、広報つくばに載せると、一番届きやすいのかなと思うんですけれども、X とかをどの程度、市民の方が見られて、それでイベントとかの情報を見たときに来られるのか（参加されるのか）というのが、ちょっとはかりかねるところがあって、最初はこういう媒体・メディアができたから、じゃあ発信しようと、いろいろ手間をかけてやるんですけど、案外効果がなかったのかな、と思うと、その発信するために使う時間とか手間を別のことに振り向けた方がもしかしたら効果的なのではないかというのもありますし、今本当に試行錯誤している状態です。 ホームページとかも、情報を載せていると、どのくらい閲覧されているのかというのを広報に確認などもしていますし、なので、これだけ情報発信のメディアがあると、行政としても全部それを網羅するのか、それとも効果的な情報をピンポイントで出すのかと。市民の方も、私、こんなに情報がいっぱいあると疲れてしまうのではないかと思ったりもするんですよね、インスタグラムもありますし。なので、それは多分、私達の課だけじゃなくて全庁的な課題、何を使ったら、自分たちの伝えたい層により多く効果的に伝えられるのだろうかというのは、本当に試行錯誤してやってみないとわからないと思います。その過程の最中で、目標値は高かったけど前年よりは減っている、そういうふうな状況でございます。 どうもありがとうございました。 確かに、その通りと思いました。それで多分ですね、生涯学習を見ようという人は、比較的年齢高いのではないかと思うのですが、高い人にとってですね、私も含めてなんですけど、SNS がどれだけ活用されているかって言われてみれば、考えるべきかなと、思った次第でございます。 どうもありがとうございます。 はい、ありがとうございます。 この件はまた多分、第４次の方でも入ってきますので、またそこで議論できればと思います。 先ほどですね鈴木委員の方から、令和 7 年度の計画進捗状況における家庭教育学級支援事業の参加者数実績について質問があったか

○油原委員	と思います。 児童生徒数を除外したため減少とありますが、ここに、従来通り保護者を含めればどれくらいになりますかっていうご質問だったかと思うのですが、すいません。 こちらですね、児童生徒層を除くという整理をしたため、そもそも保護者を含めたデータを取ってないということでした。 そのため、委員のご質問には回答できないんですけれども、今後、家庭教育学級というのは、あくまで保護者の学びの場だ、という整
○樋口会長	理をして、データを収集していきたいと思っておりますので、ご理解いただければと思います。 はい、ありがとうございます。
○ 事 務 局（瓜阪）	そうなると、それでもＣなのかっていう、評価の問題は終わったことではありますけれども、考える必要あるのかなという気は個人的にはしております。はい。島田委員お願いします。 資料３－２の２番の地域交流センターなのですが、コロナの影響がかなりあったというお話がさっきありましたが、それでも令和７年度の目標値、利用者数は、目標値に達していないのに、Ｓ評価なのはどうしてなのかなっていうことと、この利用者数のカウント方法を教えていただけたらと思います。 はい。先ほどと同じような、また数字の話になりますが、いかがでしょうか。 地域交流センターの話になりますね。目標より少ないっていうことですかね。47 万に対して 45 万で、前年度よりは増えているっていう、そういうことですかね。
○島田委員	でもさっきの最初の評価の方法をお聞きしたときに 100％とか、そういう話があって、なのに届いていないのに１Ａ、Ｓ っていうのがちょっとどうしてなのかなっていうのが、ちょっと疑問に思って。 利用者数だけ見れば、大分増えているっていうそういうことになりますかね。はい、事務局の方いかがでしょうか。 今データを探しますのでお待ちください。 こちらの２番の事業の方ですが、地域支援課と、つくば市民センターが合同で、同じような事業なので、目標値は地域支援課が 47 万で、つくば市民センターの方が、２万だったので（全体で）49 万ということですね。 実績の方が、48 万 6,000 ということで、確かに達成はされていないのですが、48 万 6,000 を四捨五入すると 49 ということになるので、それで 100％となっています。これは上の図書館の事業の方で
○樋口会長	
○島田委員	

○樋口会長	も、先ほど100％達成したのが３つあると言ったんですけど、実は３つじゃなくて、100％以上達成したのは２つの指標だけだったんですけど、３つ目もほぼ100％ということで、自動的にそういうふうにカウントしております。それで、指標もＡということになりました。
○ 事 務 局（矢部）	あと、登録団体の方も、目標は3,800ですけれども、実績の方は２つ足すと3,987と目標値達成しておりますので、ａということで、１とａをクロスしてＳという評価になっております。 ありがとうございました。 その利用者数のカウント方法っていうのは、どういった感じですか。 カウント方法は、担当の方に聞いてみないとわからないんですけど。つくば市民センターと地域支援課は、いくつかの地域に点在しているところを、交流センターが管轄しております。そこで、どういったカウントをしていますかというのを担当課に聞いて、回答いたします。
○島田委員	ありがとうございます。 続けてその下の３番と５番の出前講座と夜間講座の内容がどんなものをやっているのかっていうことと、不勉強でわからないので教えていただきたいんですけれども、内容とその参加状況、どれぐらいの方が参加されているのかというのを教えていただければと思います。
○ 事 務 局（矢部）	ちょっと進行で、倉持委員からも今、手が挙がっていますので、次の議題もありますので先に倉持委員からご質問いただいて、事務局の方は考えている時間と同時並行で恐縮なのですが、先にご意見だけ承って進めながら、終わりまでに或いはまた後日の回答という形も含めていただきたいと思います。 まず倉持委員お願いします
○島田委員	ありがとうございます。 質問ではないのですが、先ほど交流センターの利用者数のカウント方法ってあったんですけども、自分もちょくちょく利用するのですが、利用したときに、参加者が紙に書いて、終わったときに提出する方法をとっているんで、それを単純に集計すると、この数字になったのかなと思います。
○樋口会長	実は私も聞きたかったのですが、今、こういう交流センターとか市民活動センターもそうなんですけども、自習に使ってらっしゃる、学生、生徒さんとかがかなりいらっしゃって、それもカウントして

	いるのかどうかがちょっと気になったので、それもあってお伺いしました。 はい。
○倉持委員	それではカウントの仕方の話、それからその次の３番の出前講座の中身ということですが、回答できますか。 もしあれなら次の議題のところで考えていただきますが。
○島田委員	はい。 出前講座の内容について少しご説明させていただきます。 令和７年度の出前講座は実際に、家庭で始める防災対策という暮らしに関する講座ですとか、あとは、教育文化の部門では、生活と青少年の講座やコミュニティスクールの講座など、いろんな分野に分かれて講座を実施していました。全体では、大体 50 ぐらいの講座を昨年度は実施していました。 以上です。
○樋口会長	はい、ありがとうございます。 それではちょっと進行もありますので、議事の１と２については以上にさせていただきます。もしまだ他にご質問等ありましたら次の議事の３もしくはその他のところで、ご質問いただければというふうに思います。
○ 事 務 局 （谷口）	第４次つくば市生涯学習推進基本計画について それでは続いて議事３に移りたいと思います。 第４次のつくば生涯学習推進基本計画についてということで同様にご説明を受けてから、質疑に入りたいと思います。 それでは連続で恐縮ですが事務局の方からご説明お願いします。
○樋口会長 ６議事（３）	はい。では議事３、第４次つくば市生涯学習推進基本計画について説明いたします。 まず説明の前に、皆様の机の上に差し替え版の資料を１枚を置きました。それは資料４－１の最初のページに間違いがございましたので、差し替え版の方でご覧になっていただければと思います。 では、まず第４次の計画について説明いたします。 資料５－１、第４次つくば市生涯学習推進基本計画の冊子の 21 ページをご覧ください。 冊子をお持ちでない方いらっしゃいますか。
○樋口会長	こちらは第４次計画の体系になります。 第４次つくば市生涯学習推進基本計画の計画期間は、令和８年度から令和 12 年度までの５年間になります。 基本理念、「学びを楽しみ、学びがめぐり、学びでつながる幸せの

○ 事 務 局 （矢部）	まちつくば」の実現に向けて、２つの基本方針、５つの基本目標を定めています。 各基本目標に２つから３つの施策の方向性があり、それに該当する事務事業の進行管理を行っていきます。 続いて、第３次計画との主な違いについてお話したいと思います。 １点目は先ほどもございました社会力についてです。 第３次計画では、社会力を持った人材の育成を施策の柱とし、講座や勉強会を通じて実践できる人材を育成することに主眼が置かれていましたが、第４次計画では、地域全体で社会力を育み、生かす生涯学習の推進を基本方針とし、社会力への気づきを促す取り組みの充実と、多様な人材の育成を施策の方向性としています。 特に、市民一人一人が主体的に地域課題に関わり、社会力を発揮できる環境づくりに注力しており、広報活動や青少年の体験学習、ボランティア育成、次世代リーダーの育成など、幅広い支援策を展開しようとしています。 ２点目は、主な取り組みをイメージできるようにした点です。 計画に示す主な取り組みを市民がどのように活用しているか、ライフステージが異なる５人の未来の物語で描き、イメージできるようにしました。 なので、一人一人の、ライフステージとストーリー仕立てになっているので、自分の人生と生涯学習が、より想像できるような基本計画になっていると思います。 次に、進行管理票についてご説明いたします。 資料４－１をご覧ください。進行管理は、こちらの様式で行っていこうと考えています。 第４次計画では、基本目標ごとに管理票を作っております。 こちらの管理票を市役所の各課に送り、該当する事務事業を回答してもらいました。 その結果、22 部署、55 事業・取り組みが該当になりました。 第３次計画では、１つの事務事業は１つの施策の方向性に位置付けられているという形でしたが、第４次計画では、１つの事務事業につき、最大３つの施策の方向性を選んで回答するようにしてもらいました。 その理由は、事務事業はいろいろな側面があり、１つの施策の方向性にしか当てはまらないというわけではないからです。 また、この管理表に載る事務事業は、毎年変わってもいいと考えています。 毎年各課に照会をかけるので、その都度、該当する基本目標や施策の方向性を見直してもらい、事務事業を回答してもらいたいと思っています。 事業によっては、隔年開催であったり、内容を見直したりする場合もあると思います。

	廃止になったり、新規事業を立ち上げたりすることもあると思いますので、そういった事務事業の変更にも柔軟に対処できるようにしていきたいと思っています。 毎年の事務事業の評価は、担当課の評価の結果を使いたいと思います。 事業名の隣にある市民ニーズ・進捗状況の欄には、担当課が行った数字、１から５の５段階評価の結果を転記する予定です。 その平均点を、施策の方向性ごとの事務事業の評価にしたいと考えています。 さらに、担当課の実績評価の内容などを見て、事業・施策の総合的な評価を事務局で記述いたします。 この管理票で、薄い黄色の部分が、事務局で記入する箇所で、濃い黄色の箇所が、審議会で評価していただく箇所になります。 この進行管理票での具体的な評価方法に関しては、第２回の審議会で皆様に議論していただきたいと考えております。 この管理票を見てわかるように、第４次では、各事務事業の数値目標は設けておりません。 その理由は、数字を追うことで、議論が各論的になってしまうのを避けるためと、数字を追いかけても、成果に繋がっているのかが分からないからです。 審議会では、基本目標や施策の方向性に沿った事務事業が行われているか、各事業が目標に直結しているのかなど、各事業が目標達成のために貢献しているのかというような視点で、委員の方に議論していただけたらと考えています。 次に、第４次計画の成果指標と目標の設定について説明いたします。 また資料５－１、冊子の方ですね、の 45 ページをご覧ください。 こちらの表が、第４次計画の成果指標と目標値になります。 成果指標の４、５、６は、第４次で新たに入った成果指標になります。 第４次計画の最終年度近くに行う意識調査アンケートでは、この目標値を上回る、結果が出て欲しいと事務局としては強く思っています。 特に、３自分の学習成果で社会に貢献した人の割合と、４学びの成果を地域や社会での活動に生かせる人の割合は、社会力に関する成果指標となりますので、この調査結果が少しでも向上するようにしたいです。 過去の調査結果を見てみますと、自分の学習成果で社会に貢献したい人の割合は、平成 24 年（2012 年）の調査で、54.7％だったのが、平成元年（2019 年）では 49.6％、令和６年（2024 年）では 44.1％と、調査の度に約５ポイント減少しています。 この減少傾向に歯止めをかけ、少しでも上昇するように、審議会の委員の皆様には、意見やアイデアなど、活発に議論していただきた

	いと考えております。 以上です。 はい。ありがとうございました。 ご説明のありました通りです。基本目標、施策の方向性に具体的にどうするかということが、資料の４－１で目標ごと、１ページごとに出ているかと思います。これについてのご質問とご意見、それの評価の仕方、先ほどの議題のような形ではないやり方にしていこうというご提案でした。具体的なことは、今日はまだ出てきませんけれども、それについてのご意見、それから、基本方針に関する市民の調査ということについての方向性、その他いろいろご提案ご質問等いただければというふうに思います。 30 分弱になるかと思いますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。はい。副会長どうぞ。
○樋口会長	 はい小森谷です。 最初に確認なのですが、45 ページの生涯学習に関する市民意識アンケートの結果を上げていくというようなことになっていますが、この市民意識アンケートの問いっていうのは、ずっと変わってないですか。 設問自体の文章は変わっておりません。 はい。 指標が変わってくれば、質問が追加になったりもしてないですか。ずっと変わらないですか。
○小森谷副会長	 質問数の増減はありますが、その経過を追っている成果指標の設問の文言に関しては変わっておりません。 わかりました。 先ほど３番について特出しで下がっていると、自分の学習効果で社会に貢献したい人の割合が５ポイントずつ下がっているというお話ありましたが、４番に関しては、いかがでしょうか。
○ 事 務 局（矢部）	これが低いので、特出しでお聞きするのですが。 13.8 という数字ですかね。はい。
○小森谷副会長	 今お調べします。
○ 事 務 局	 分かりました。なぜ聞くかというところなのですが、先ほど、これ

（矢部） ○小森谷副会長 ○樋口会長 ○事務局（矢部） ○小森谷副会長 ○事務局（矢部）	からの課題になってくる社会力っていう大きな概念をどう評価していくか、これって評価ポイントで大分変わってくるじゃないですか。 第３次で見ているのは、例えば地域リーダーを作る、その講座の参加人数みたいなところが大きいと思うのですが、今どき、私がリーダーになりたいですっていうね、１人のリーダーを作るっていうよりかは、みんなで支え合って作っていくというか、横の繋がりをふやしていくというような感じですかね、地域で横の繋がりを作って、みんなで何かを作り上げる、誰か強いリーダー、強い区長さんが１人いて、その下に、区会の皆さんがいるみたいな、そういうイメージから変えないといけないというふうに思います。 そういったときに、その社会力っていうのをどういう指標で評価するかって言ったときに、ずっと変わらない問で聞いている市民意識アンケートだけでいいのかなっていうところが、ずっと疑問に思っていて、そのあたり、これからの議論で、皆さんとどうしていくのかっていう話はしていかないといけないところなのかなとも思うのですが。 今のその事務局案としてはどのように考えていらっしゃるかお聞きしたいと思います。 調査の設問に関しては経年変化を見ているものなので、文言を付け加えたり、変更したりというのができるのかどうかの即答はできかねます。 それから社会力に関してなのですが、第３次のときも、社会力と言いつつ入っているのは、生涯学習の社会力講座と、市民協働課の地区リーダー、それから、都市計画課の地域まちづくり支援事業だったんですね。 生涯学習推進課では社会力の講座をやっていて、社会力の講座に参加した人数とかアンケート調査が成果指標になっていて、市民協働課の地区リーダー勉強会というのはユーチューブで動画を配信しているので、それがどのくらい視聴されてたかというのが、実際の成果指標になってるんですね。 それから都市計画課の地域まちづくり支援事業では、まちづくりの見学の会とか専門家の派遣とか、市民が希望すれば、目標値は達成できるけど希望しなかったら、０とか１回とかになってしまうというような成果指標になっていたんですね。 つくば市役所内でも、教育局の教育大綱に社会力というのが入っていますが、事務事業をやっている担当課がよくわかっていない、知らないという課題があると思います。そして、社会力と言っても、一般名詞みたいな感じで何げなく社会力という言葉を使っている課と、うちの教育局の定義をわかった上で社会力という言葉を使っている課と違うと思うんですね。 だからまずこの社会力という言葉と、教育局は教育大綱でこの市民

	に対して社会力を身につけてもらいたい、育成したいとういうことを大きく掲げているということを、庁内でまず周知するというのも必要なことだと思いますし、事務事業をやっている市自体がですね、よく理解もしていないのに、市民のアンケートで回答が上がってくるというのもなかなか期待できないと思うんですよね。 ではじゃあ、どうやって市にこれだけある事務事業をやっている担当課に周知していくのか、社会力を市民に育成してもらうような（事業にしてもらうのか）、そして（各事業を通して）地域の課題解決になるような行動変容を起こしてもらいたいと、生涯学習推進課、教育局で思っていますが、そういうようなフィードバックも、もうちょっとやっていかなきゃいけないと思いますし、生涯学習推進課だけで旗振りをしてもだめなので、こういった審議会でいろんなアイデアとか、こういう事業も社会力なんじゃないのかというアイデアでも結構ですし、こういう視点からこの事業をやって社会力に結びつけたらいいんじゃないのかなど、そういったアイディア・意見もどんどん言っていただいてですね、それで審議会での議論の結果を各担当課に、こちらはフィードバックして、そちらの事業に、もうちょっとこういう視点で工夫してくださいね、というように言えたらいいなというふうにも思っているんですね。 本当にいろいろ課題はあるので、皆様にどうすればいいのかというのを率直に議論していただきたいと思っております。 おっしゃる通りで、各担当課が社会力ってどこまで理解してるのかっていうとなかなか難しいところがあるっていう話は、本当にその通りだなとは思います。例えば、ここにはアイラブつくばの事業が入っていますかね。 ちょっと見つからなかったんですけど、アイラブつくばでやってるような活動ってまさしく社会力、市民の皆さんがチャレンジしてみたいっていうことでプレゼンをして、補助金を勝ち取って活動してるわけですよね。ああいったこともすごく社会力の評価になるんじゃないかと思うんですけれども。だけど、例えばその生涯学習推進課が他の課の事業っていうのを、学ばなきゃいけないかもしれないし、私たちもそうなんですけれども、指標として、少し物足りない。この事業の立て方も、何か物足りない感じがあるなっていうのは私の第１印象です。 はい。ありがとうございます。 ちょっとこちらで、社会力が鷲田委員がずっとコーディネートで関わってきているんで、ご説明とかお話をお願いできればと思います。
○小森谷副会長	 はい。ありがとうございます。社会力について改めて一言お話しさせていただきます。

○樋口会長	社会力というのは人と人とが繋がり社会をつくる力、ということで、つくば市の方で推進をしていただいています。 皆さんご存じの通りつくば市には多くの多様性に富む人材、そして知恵と工夫が蓄積されているすばらしいまちだと思います。 でもそれぞれが持つ学びや力というのは、その人自身が誰とも繋がっていなかったら個人の学びでしかなく、繋がってこそ地域の力になっていきます。 例えば仕事で培った経験を地域活動に活かしていただいたり、或いは研究者が子供たちに学びを届けたり、それから子育ての知恵をその次の世代につなげていくというような形で、市民の社会力が高まっていくとそれ以外の方々も、自分も地域のために何かできるのではないかということで、機運というのが上昇していきます。 ひいては、つくばのこれから、課題山積の中、地域の課題解決にも繋がる力になっていきます。 つくば市の未来構想は先ほどご説明いただきました。
○鷲田委員	繋がりをつくり、繋がりを力に未来をつくるというものでしたし、それから第４次基本計画の「学びを楽しみ、学びがめぐり、学びでつながる幸せのまちつくば」の土台となるのがまさにこの社会力なのではないかと思います。 以上、ご説明させていただきました。
○樋口会長	はい、ありがとうございます。 ということで、とりあえず社会のことが課題だということで事務局も意識してらっしゃるので、何かそれに関してご質問とか、こうあったらいいのではとかご意見、或いは、こういうふうに実際課題があるようなことで、ご意見いただけますでしょうか。 はい。石塚委員お願いします。
○樋口会長	石塚でございます。 社会力については、私以前、中学校の学校評議員制度があったときの最後の評議員やっていたのですが、たまたまそのときの校長先生から社会力について時間をかけていろいろ話を聞いたんです。 それで、ああなるほど、社会力って難しい、そのときに思ったんです。 それで、この第４次作ったときに、社会力っていうのは、個人個人、簡単に考えれば社会力は簡単ですよ。 社会を変える、ああそうか、なんてなってしまうのですが、奥深く考えたら、本当に難しい。 いろいろな考え方もあるし、だからアンケートをとっても、社会力だけの言葉だけで、アンケートをとったら、良い答えは出てこないかもしんないですけど、そのことを以前にしみじみ、社会力の大事さを覚えさせていただいたもんですから、ちょっと発言させてもらうんですけど、社会力の難しさってのは、（意味が）広いですから

	大変だと思いますよ、市民の皆さん方に理解してもらうって。以上です。
○石塚委員	はい。ありがとうございます。他いかがでしょうか。 はい。油原委員お願いします。
○樋口会長	この教育大綱の第１番目にですね、つくばの教育は１人１人が幸せな人生を送ることを最上位の目標とする、と書いてあります。 そして、ここの資料の１－１につくば市未来構想、繋がりを力に未来をつくると書いてあります。 今、石塚委員のお話を伺って、社会力っていう言葉だと、我々でさえも勉強が必要だけれども、例えば、繋がりとか広がるという言葉をアンケートに使うことによって、加えることによって、ずっと使ってるもの（アンケートの項目）は別としてそれに補足して使うことによって、生涯学習に参加したことで、誰かと繋がりが増えましたか。それから、人生の生きがいが増えましたか、広がりましたか、というような質問があればですね、もっとよくなるんじゃないでしょうか。友達ができましたか、とかですね、そういう質問の取り方によって、このつくば市生涯学習課のやってることが実は、そんなにみんなに成果が出てたのかと、私なんかは思うんじゃないかと思ってるんです。 なぜかっていうと、自分自身がそうなので、今年初めて生涯学習に参加させていただきました。本当に恥ずかしいことです。 生涯学習っていう視点を学ばせていただいたつくばは素晴らしいです。そして地域のですね、例えば民生委員の方がピンポンとか来
○油原委員	てくださる、それでさらに、私、あ、いいな、このつくばはって思ってるんです。あちこち転勤して実感しているのは、やっぱりつくばは安全だということです。 国際的な人々、少なくとも留学生が筑波大学には 2,500 人います。それから、市全体で研究者が 7,000 人も、今そんなの、日本全国どこにもないですよ。 そういうところなので、そもそも私たちが、日本の雛形作るんだっていうぐらい素晴らしいところだと私思ってます。 だからそれを自分がどのように人に紹介させていただけるか、これが自分自身の課題だと思ってますけども。 その（教育大綱の目標が）１人１人が幸せな人生をつくることっていうことであれば、あなたはつくばに来て幸せですかって、多分そんなアンケートつくれませんけど、はい幸せですっていう人がね、実は心の中で多いんじゃないかと思います。 ということでこれは私のただの感想ですけれども。 お伝えさせていただきましてありがとうございます。
	はい、ありがとうございます。はい。他はいかがでしょうか。

	鈴木委員どうぞ。 鈴木です。 先ほどの第３次計画のところでは数字ですとか、利用者数とか、そういったところで評価をしていたのですが、第４次計画のところでは市民のニーズに沿った、というところで、とてもいいなというふうに感じました。 こちらの市民ニーズを図るにあたって、アンケートをするっていうところではあるんですけれども、こちらの管理表の方を見ていますと、それぞれ担当課のところで、市民ニーズのところを測る項目があるので、各担当課でそれぞれ何か違ったアンケートを実施する予定なのでしょうか。
○樋口会長	はい。 こちらの市民ニーズのところは、各担当課がアンケートをとっているかどうかはわからなくて、各担当課が市民ニーズをどう感じているかというので、評価する数値になります。 だから、（この事業が市民に）求められているとかそういう感じで、各担当課が自分たちの事務事業の評価をして返ってくる結果っていうものになります。
○鈴木委員	そうすると実際に市民の満足度が評価として出てくるというわけではなくて、各担当課が感じたところで、評価するっていうことですか。 そうですね。各担当課が何を根拠にそれ（市民ニーズの欄）を回答してくるのかというのは聞いてみないとわからないです。 それは、生涯学習（推進）課の方で、指標みたいなものを各担当課に出すわけではなく、それぞれの担当課で、決めた指標っていうような形でしょうか。
○ 事 務 局 （矢部）	その指標というか、各担当課が毎年の事務事業を回答して、自分達の事務事業を評価してるものになるので、それを利用していきたいと思っています。 はい。わかりました。
○鈴木委員	はい。あとちょっといいですか。 補足で、先ほどの油原さんとかの質問の、アンケートの表現の工夫ということに関しては、そういった（みなさんの）アイディアを生かしていきたいと思いますし、文言を変えられないような設問に関しては注記を加えるなどして何か工夫はしたいと思っています。

○ 事 務 局 （矢部） ○鈴木委員 ○ 事 務 局 （矢部） ○鈴木委員 ○ 事 務 局 （矢部）	それから幾つか回答させていただきます。先ほど地域交流センターの利用者数のカウントの方法に関して質問がございましたが、フリースペースでの利用の人数はカウントはしていません、予約が必要となる、部屋を貸す、貸室の利用人数の合計ということになっております。 それからその前に、休日とか夜間でどんな講座をやってますかというような質問があったかと思うんですが、地域交流センターの令和７年度に関してですと、地域交流推進課でやっている地域交流センターの講座だと、主な講座内容というのが、親子でパンづくりとかオカリナをふいてみようとか、手打ちうどんを作ろうとか、あとヨガですね、内臓ヨガとか、そういった講座をやっているということでした。 それで、市民センターの方はですね、講座内容としては朗読劇、保護猫ボランティア、動画作成、AI 活用、NPO 設立等と、そういった内容の講座を開催しているということでございます。 また、先ほど小森谷議員の、質問でですね、冊子の方の 45 ページの４ですね、４の学びの成果を地域や社会での活動に生かしている、生かせる人の割合っていうのが少ないというご指摘でしたが、これに関しては、今回新たに設問に入ったものでして、過去の数値はありません。以上です。 はい、ありがとうございます。 残り時間限られていますので、今、中川浩之委員からご発言いただきたいと思います。そのあとご発言が無い方から一言ずつ感想等、なければないでも結構ですのでいただいて、終わりにしたいと思いますので、進行の方よろしくお願いいたします。それじゃ中川浩之委員お願いいたします。 はい。市民のニーズっていうのはいろいろ多様だと思うんですけども。 何かを学びたいと思ったときに、自分で、Web で探したりとか、スクールに通ったりとか、いろんな方法があると思うんですね。 ここの計画で、多様な学びを実現するために、市がやるべきこと、或いは民間に任せること、そういうコントロールというんですかね、優先順位をつけたりするようなものは、何かこの計画の中に、載ってるんでしょうか。 それによって、それが実現できたできなかった、という評価になると思うので、全部市で、講座を開く必要はないと思ってまして、その辺はどうなんでしょうか。 はい。
○樋口会長	基本的な考え方になると思います。事務局いかがでしょうか。

	はい、ありがとうございます。 中川委員がおっしゃいますように、全部市でやる必要はないというのは、逆に民間に任せることによって、民間の意識といいますか、そういった行動変容にも繋がると思いますので、そういった視点は大事だなと感じています。どんどん民間の力を借りながら、市内全域に社会力が浸透するように、施策を展開するのも１つの案だと思いますので、参考にさせていただきたいと思います。
○中川浩之委員	
	よろしいですか。 何か追加あれば、はい。
	やっぱり、体験の格差というのが結構あると思うんですね。 その体験、小さいころにいろんな体験をしてきた子が、やがて成長したときに、社会力は高い（高くなる）というふうに私は思ってるので、やっぱり、民間でやっていても、なかなか貧富の差で、高額なスクールには通えないとかいう子もいますので、そういうのを考えて、市が対応したほうがいい内容というのをしっかり考えて取り組んでいったらいいかなと思います。 以上です。
○樋口会長	
○ 事 務 局（澤頭）	何かありますか。はい。
	はいありがとうございます。 やはり行政がやるべきというのは無料ですとか、安価な価格で講座を設定するというのは行政のやるべきところだと思いますので、そういったところを念頭に置きながら進めたいと思います。 ありがとうございます。
○樋口会長	はい。ありがとうございます。 それではご指名で恐縮ですが、名簿順で岩瀬委員、海老原委員、中川元委員、中野委員の順でもしご意見あれば承りたいと思います。
○中川浩之委員	よろしくお願いいたします。
	大変勉強になりました。 学校の校長として、大きなくくりで考えていたのですが、学校は今、不登校が増えています。 誰１人取り残さない学びっていうところに、視点を置いてこれを読ませてもらったときに、外国の方と障害者の方に重点を置いているということを、目にしたんですけれども、やはりこの不登校の子たちが卒業して、取り残されていないのかどうか、ひきこもっていないか、あと発達障害の子たちがどういう、学びを取りに行っているのか、すごく、その辺りも含めてカバーしていただけるとありがたいなと思いながら聞かせてもらいました。
○樋口会長	
○ 事 務 局	

（澤頭）	あと、５番目にある、45 ページの、地域や社会を良くするために何かしてみたいという、この全国学調なんですけれども、ここは 79.5 ですが本校は 93%ぐらいで非常に高いんですが、何かしてみたいとみんな思うんだけれども、そのあとに続かないっていうのが現状かなと見せてもらいました。
○樋口会長	また勉強させていただきます。ありがとうございました。 はい。 事務局回答は一括していただきたいと思います。海老原委員お願いします。
○岩瀬委員	はい。 本日は、初めて参加させていただきまして、大変勉強になりました。また、つくば市の方々が作った資料、とてもね、細かく深く、分析されている資料で、非常にレベルが高い方々だなというふうに感じました。 いろいろお話伺った中で、私は民間企業なんですけども、民間企業として何か貢献できることはないかなあということで、いろいろ考えてるんですけども。つくば市が全部やることと外部に任せる。 そういったところで私たちの民間企業でも、各企業によって得意分野っていうのはあると思います。そういった部分を活用するといいんじゃないかなっていうふうに思いました。 私、食品スーパーのカスミで皆さんにいつも大変お世話なってますけども、今月の始めですね、生涯学習センターで出前講座をやらせていただいたので、そういったこともっとできるんじゃないかなというふうにも思いましたんで、今後、貢献できるかなというふうに思いました。
○樋口会長	あと、まずですね、この社会力ということで、やっぱり社会力って、かなり大きな概念で、その定義というか、社会力って何だっていうことを、よく腹落ちしないと、なかなかこういう議論しても、やっぱりこう頭に入ってこないんですけども、先ほど人と人が繋がり、
○海老原委員	新たな力を生むことっていうことで、これでね、社会力ってそういうことなんだということで、非常にすっきりした気持ちになりました。 ということで、やっぱり、つくばの市民の方にも、わかりやすい言葉で伝えるということがいいんじゃないかなっていうふうに思いました。 あと、この冊子 45 ページの資料５－１の７番ですね。 市の政策のうち、生涯学習に満足、どちらかといえば満足の人の割合 31.3%って書いてありますけども、31.3%っていうことは 69%の人は、そうじゃないというふうに答えていると思うんですけど、補足の質問とかで、どうしたらよかったですかとか、何が良くなかったかっていうことを質問するっていうのもいいんじゃないかな

	っていうふうに思いました。 はい以上。感じたことです。ありがとうございました。 はい、ありがとうございます。 はい。中川元委員お願いします。 緊張しますね。私自身初めて参加させていただいて、深い学びの機会になりましたっていうのがまず、第１声で、自分自身が生涯学習というか、数年前から学びの使用含めて、気づいたのがあります。なので、自分自身がすごいやってよかったっていうのがあるので、多くの人に、このような活動とか、あと生涯学習のすばらしさっていうのを、広げていきたいなと思って今回参加させていただいてます。 例えばなんですけど、コミュニティスクールに関しては、僕自身が、リブランディングというかブランディングをして、やらなきゃいけないじゃなくてむしろやりたいからやっちゃった。副産物でこんな体験ができた、先ほど中川（浩之）委員がおっしゃっていたように、体験格差、やってよかったっていうような経験があると思ってるのでコミュニティスクールのブランディングをやりたいと思っています。 それが大人が地域で探究活動を含める第一歩目じゃないかなとも思っています。 子供とか中高生を含めて探究活動っていうのが、広く浸透しているかと思うのですが、僕自身、民間で中小企業に勤めていますとそういった機会っていうのがほぼ皆無に近い状態で、自ら学びを取っていかないとできない活動だと思ってます。 ただ、探究って面白いので、やっぱりどんどんどんどんやりたくなっちゃうっていうのがあるので、そういった経験があると思ってます。 あと、幸せっていう言葉がいろんなところで出てきてるとは思うんですけど、私としては何々したほうが、後からその方にとってはいいと思ってるんです。 ただ、その時にその方ができるのって、まず選択ができるっていうことが必要なんじゃないかなと思ってるので、こちらとしての一方的な思いだけではなくて、その人のバックグラウンドとか、その時の状況に合わせて、その方が感じる幸せっていうのが、その時その時によると思ってるので、そういったところも、必要なんじゃないかなって思いました。 あとですね、出前講座夜間講座の中に潜在的には欲しい人もいると思ってます。 現状を踏まえると、ニーズとシーズがマッチしてないんじゃないかなと思ってます。 その解決方法として情報の格差があると思ってるので、何か統一で
○樋口会長 ○中川　元委員	

	きたりとか、あとは欲しいものが欲しいときに欲しい人にちゃんと届けるような、市民１人が、思う願いっていうのがあると思ってて、新住民新々住民みたいな形で、どんどんどんどん新しい方が増えてってるんですけど、よく耳にするのは、どこに何があるのかがわからないっていう、その格差が大きいんじゃないかなって個人的には思っています。 はい。 あとは、個人的にPTAの派生から考えると、事実は１つで解釈は無限大だなと思っているので、僕は何かボランティアとかって結構好きなんですけど、さっきおっしゃっていただいた体験格差に繋がると思ってて、何か僕ボランティアやることによって得られる、学びの方が多いなと思ってるので、研修とかやらなきゃいけないじゃなくて、やってみたら楽しかったから、何か（繋がればいいなと）、PTAの奉仕活動を僕はフェスティバルにしたいと思っています。以上です。 よろしくお願いいたします。ありがとうございました。 はい。ありがとうございました。 では中野委員お願いします。 はい。 今日は生涯学習が、どんな感じなのかなというのを理解するために来たなっていう感じで、皆さんのお話を聞かせていただきました。聞かせていただきながら、学校教育と重ね合わせていろいろ考えながら、お話をお聞きしてたんですけれども、子供たちがつながりを一番学べるのが学校で、学校で社会力っていうものも大きくなっていくんだろうなと思うんですけれども、コロナもありましたし、それから教員の働き方改革ですとか、子供たちのトラブルの解決ですとか、いろんな課題が学校の方にもあるんですけれど、いろんな背景がすごく変わってきてるのかなあというふうに感じています。 学校もそうなんですけど地域でも、子ども会がなくなったり、地域のお祭りがなくなったり、地域の行事っていうものがどんどんコロナも関係すると思いますけれども、なくなっています。 だから、地域に行かせるかっていうふうに質問されたときに、地域に活かせる場所っていうのが、頭に浮かんでこないのかなあっていう感じがしています。 そういった背景の変化もあるので、経年変化を見ているアンケートですけれども、 やっぱり質問項目について、（環境が）新しいものに変わったのであれば、質問項目を変えながら評価していくことも必要なのかなあなんていう感じも持ちました。 また、生涯学習をやっていくにあたって、自分がやりたいなって思えるテーマが必要かなあというふうに思っていて、以前のこの社会
○樋口会長	

○中野委員	力の事業内容を見ると、対象の年齢が高かったり、YouTube の動画だと見ることができないような方、区長さんとかの年齢を考えるともしかしたらあまり見えられないのかなと思ったんですけど、そういったところもあるので、もっと何か、低い年齢層を対象にしたりとか、親子で学べるような、地域の社会力の向上のテーマだったりとか、または、どこかの地域を限定して、こちらからこう行って、学びをやっていただくとか、そういった何か積極的な取り組みもいいのかななんていうふうに思っています。 （環境が）変化してる中で、よりよい生涯学習のあり方、どうなのかなっていうのを私もこれから勉強させていただきたいなと思いました。 ありがとうございました。 ありがとうございます。 鷲田委員どうぞ。 ありがとうございます。 はい。 社会力を持った人材の育成のことについて一言申し上げます。 この育成のカギは、学びの直後に出口として実践の場があるかないかというところだと感じています。 そこで既存の事業のブラッシュアップとして、学びたい人と教えた人をつなぐつくば市生涯学習指導者登録の制度がありますけれども、こちらを一大キャンペーンしていただいて、皆さんに周知するとともに内容充実していただければ、本当に学びたい人と、何か教えたい人とのマッチングがよりよくできるのではないかと思います。 実はコミュニティスクール、竹園学園の方に出させていただいていて、こういう（指導者登録のような）制度があったらいいのにねというご意見が先日あったんですね。 つまり、関係者でも制度をご存じない方がまだいらっしゃるということを実感いたしました。 ぜひ、油原委員からお名刺のご紹介ありましたけども、何かロゴですとかバナーですとか、その指導者に登録された方が誇りを持って提示できるようなものを、無料で、今幾らでもメールで送れると思いますのでそれをもって、指導者の方々がその制度をみずから PR していただけるようなそんなキャンペーンができたらいいなと、1つの提案として申し上げました。
○樋口会長	以上です。 ありがとうございます。
○鷲田委員	はい、ありがとうございます。 一通りご意見いただきましたが他に何か委員の皆様から追加であ

	りますでしょうか。 よろしいですか。事務局の方からも何かまとめて回答等ありましたらお願いします。 はい、委員の皆様、大変多くの貴重なご意見をありがとうございました。 様々な視点を得られたなというふうに思っております。 かいつまんで申し上げますと先ほど不登校や発達障害の方へもということで、誰一人取り残さないっていう観点からも生涯学習、進めていきたいなと思っております。 ただ海老原委員の方からも企業の得意分野を活用してみてはどうかという点は、大変力強い言葉をいただけたなと思っておりましてうれしく思っております。どうぞよろしくお願いいたします。 他にも様々なご意見いただきました。 小中高生の段階から社会力、年齢低い、大人になってからではなく、低い段階からっていうのも確かにそうだなというふうに思っておりまして、どこまでできるかはちょっとわからないんですが、意識して取り組ませていただきたいなと思っております。 あとは、家庭教育の企業版という、企業に出向くってお話を今回させていただいたかと思うのですが、中野委員の方からおっしゃっていただきました、地域を限定しての出前の生涯学習というのも、できるかどうかわかんないんですが、観点としてはすごくいいなというふうに思いました。
○樋口会長	指導者登録の一大キャンペーンも生涯学習推進課の事業でございますので、いろんな事業を組み合わせながら、もっとやれることはきっとあるんだろうなというふうに思い直した次第でございます。 今日は、委員の皆様から本当に大変貴重なご意見をいただいたかと思っております。 また皆様のご意見をちょうだいできるのをすごく楽しみにしております。
○ 事 務 局 （澤頭）	ありがとうございます。 はい。 ありがとうございます。 前期の委員会で作ってくださったこの推進基本計画をどういう形で実りあるものにしていくのかということが私どもの今期の使命かと考えておりますので、ぜひ引き続きご意見ご助言等いただければというふうに思います。 はい。それではとりあえず本日の議事につきましては以上とさせていただきます。 それでは進行を事務局の方にお返しさせていただきます。

○樋口会長 ７　その他 ８　閉会 ○ 事 務 局 （瓜阪）	樋口会長、議事進行、どうも、ありがとうございました。 皆様特に質問等ございませんでしょうか。 よろしいでしょうか。 では、次回の開催時期についてですが、来年２月もしくは３月ごろとなる見込みです。 詳細決まりましたら、ご連絡差し上げたいと思っております。 では、以上をもちまして、令和８年度第１回生涯学習審議会を閉会いたします。 今日は、第１回で、初めての委員の皆様もいらっしゃる中、大変参考になる、建設的な意見、アイデアをいただきましてどうもありがとうございました。 素晴らしい皆さんに、委員になっていただいたなと、うれしく感じております。 どうもありがとうございました。 なお、本会議の会議録につきましては、事務局で作成の上、委員の皆様に確認の依頼をさせていただく予定でございますので、どうぞよろしくお願いいたします。 それでは、本日はどうもありがとうございました。

令和８年度第１回つくば市生涯学習審議会　次　第

日時　令和８年(2026 年) ８月 26 日（水）
午後２時
会場　つくば市役所 防災会議室(2)（3)

１　開　会
２　任命書交付
３　挨拶
４　自己紹介
５　会長及び副会長選出
６　議事
(1) 第３次つくば市生涯学習推進基本計画令和７年度計画進捗状況について
(2) 第３次つくば市生涯学習推進基本計画における取組状況について(総括)
(3) 第４次つくば市生涯学習推進基本計画について
７　その他
８　閉会

【配布資料】
資料１－１　第３次計画施策の体系
資料１－２　第３次計画評価基準
資料２－１　第３次計画における取組状況
資料２－２　第３次計画施策の方向性ごとのまとめ
資料３－１　令和７年度(2025 年度)施策の方向性ごとの評価一覧
資料３－２　令和７年度(2025 年度)事務事業進捗状況一覧表（抜粋）
資料４－１　第４次つくば市生涯学習推進基本計画進行管理票
資料５－１　第４次つくば市生涯学習推進基本計画
資料５－２　第４次つくば市生涯学習推進基本計画　【概要版】
参考資料１　つくば市生涯学習審議会条例
参考資料２　委員名簿
参考資料３　つくば市教育大綱